

岡村英樹(著)

「OT・PT・ケアマネにおくる 建築知識なんかなくても 住宅改修を成功させる本」

備酒伸彦

神戸学院大学総合リハビリテーション学部

●ノウハウ本ではない本

4章19節96項目それぞれに見出しのついた読みやすい本書を、著者は「ノウハウ本」ではないと冒頭で宣言している。読み進むうちにその意味がはっきりと伝わってくる。例えば、大きな病を患ったとき、医師でもない私が治療のノウハウを聞きかじっても意味がない。何よりもほしい示唆は「誰に、どのように頼ればよいか」というもので、本書は住環境整備についてその期待に見事に応えている。

著者は数多の「住宅建築・改修」、というよりも実は「ケア」に深く関わるうちに、様々な専門家の凄さを感じ、同時に各々の限界を知ったのだろう。そして、互いがうまく頼り合うことではじめて良い仕事となることを悟ったのだと思う。その意味で「ノウハウ本ではない」という言葉には、著者の“チーム”への期待と、何よりもチームを構成する人たちへの尊敬を感じる。このような著者の態度に貫かれた本書には、たしかにノウハウは書かれていないが、それでいてたくさん

●本質と実践論を表した本

著者は「環境整備の本質を見つめ、実践論を目指した」とも述べている。

ケアの世界で「具体的な技術のない想い」など何の役にも立たない。同じように「想いのない技術」には発展性を期待できない。しかし、この両者を並び立た

せることは実はとても難しい。その難しさを自らに課した著者は、全編にわたって本質と実践論を併記している。これには感嘆すると同時に、自らの仕事への姿勢をも考えさせられるものである。

●「正しい答えはありません」という本

潔い言葉である。さらに著者は「正しいアプローチの仕方はあります」と続けている。すなわちアプローチに責任をとることを明言するものでいっそう潔い。

ケアに深く関わる著者ではあるが、目に見える形で結果責任を問われる建築士であり、夢を語る設計事務所

●1人でも多くの方に、少しでも快適な環境を提供するための本

著者の本質はこの言葉に表されているように思う。

本書を通読して、ほぼすべてが具体的なケース記録に基づいていることに気づいたとき、少なからず嫉妬さえ覚えたものである。著者の精緻な評価力・記録力と、何よりもケースとの強い絆に嫉妬を感じたわけである。その意味で、本書にはいささかの嘘もないと言

い切ることができる。いささかセンチメンタルな表現であるが、楽しい思い出や辛い思い出に、微笑みながら時には涙を浮かべながら本書を書き進めた著者の姿が浮かんでくる。

「正直な本である」。1人でも多くの方に手に取って

いただきたいと心から願う本である。

●B5 変形判 220 頁

定価 3,360 円(本体 3,200 円+税 5%)

2007 年 三輪書店・刊